



うなばら 海原

題字河原孝好先生

海城中学高等学校同窓会誌

発行

2019年12月1日

第50号

海原会

発行人 徳光和夫

編集責任者 小西洋也

〔海原会事務局〕

〒169-0072 東京都新宿区大久保 3-6-1 海城学園

TEL 03-6233-9631 FAX 03-6233-9641

ホームページ URL <http://www.unabarakai.jp>

過去最高の38名が参加 JAXA 筑波宇宙センターを見学 海原会見学会



今年、海原会見学会は11月10日に「はやぶさ2」など、いま話題のJAXA（宇宙航空研究開発機構）の筑波宇宙センターを訪問、日本の最先端宇宙科学の世界を間近に学び触れることができるという見学会となりました。JAXAには多くの海城OBが所属、昨年JAXA海原会が立ちあげられました。今回の見学会は渡辺英幸さん（昭和63年卒）を中心としたこのJAXA海原会の全面協力のもとに実現しました。参加者は38名、これまで一番多い見学会となりました。

（見学会会長 昭和36年卒 杉山紘千佳）

JAXA海原会の全面協力

見学会ではスペースドーム・宇宙飛行士養成棟、宇宙ステーション運用棟の3ヶ所を回った。スペースドームは誰でも見学できる場所なのだが、それ以外は事前予約をしたらうえ、立ち入りには身分証明証が必要とされた。さらに、宇宙ステーション運用棟では撮影可能な機器の提出までした。まさに国家機密に触れているのだと一同緊張する。

見学会には渡辺さんと伊藤正宏さん（昭和63年卒）が同行してくれて細かな説明や解説をしていただいた。屋外展示されているH-IIロケットの前で集合写真を撮ったときのこと。「このロケットは模型ではなく打ち上げられなかった実物のロケットなんですよ」。一般の見学者では聞けないであろう、話も聴けたのは海原会ツアーの醍醐味だった。

同窓生の活躍を目の当たり

宇宙ステーション運用棟では管制室をガラス越しに見学した。正面にいくつもの大きなモニター。職員の前にはたくさんのパソコンの画面。モニターには宇宙ステーションからの地球やアメリカの管制室の様子などが映し出されている。さながら、映画の1シーンのようだった。

そのとき、職員の一人が振り返って、こちらに手を振ってくれた。彼こそ、国際宇宙ステーション運用管制責任者の佐孝大地さん（平成13卒）だ。世界と連携しながら地上から国際宇宙ステーションを運営しているのだという。

日本の最先端科学の第一線で活躍する同窓生を目の当たりにし、高揚した気持ちで筑波宇宙センターを後にした。その後は、JAXA海原会絶賛のMaruにて昼食。一同、JAXA海原会の皆さんと母校海城を誇りに思う一日であった。

（取材 昭和62年卒 国井信男）



※海原会は皆様の会費で運営されております。

同期会 クラス会 だより



昭和22年23年24年卒 海原三三四会 希な体験を「糧」に

かつては大きな会場に溢れるほど集まっていた海原三三四会も89歳を迎えて僅かなメンバーになったが、今回は久しぶりに大病を乗り越えた西組級長の奥山が元気な姿を見せた。わずか7人の中に梅原、奥山と級長が2人になった。級長というのは長寿なのかもしれない。会場は池田の前職のおかげで、毎年新宿住友ビル47階のクラブで、眼下にレンガ色の海城学園を眺望しながら催している。

思えば我々は海城の歴史の中でも極めて稀な体験をしている学年であった。

昭和18年に入学し、最初の全校行事が山本五十六の国葬参列であったし、中学2年時には勤労動員令が発令されて強制撤去する家屋の取り壊しや水道管の回収に従事した。中学3年時には帝国陸軍が創設した東京戦馬機動隊の整備部隊として府中競馬場に召集され一人一頭の馬の管理を命ぜられ、米軍上陸の暁には各自の馬に兵糧弾薬を積んで信州某地点に転進するという軍命を受けていた。戦後の4年生時には特別休暇が与えられ、その期間に各自アルバイトをして消失した講堂再建資金を学校に拠出した。しかもこの時期には四六時中空襲、銃撃、食糧難、貧困、空腹に苛まれていたのである。



振り返れば過酷な暮らしではあったが遊びもし喧嘩もし学びもし「不幸」ではなかった。我々は皆この体験を「糧」として、その後の人生を送ってきた。残念なことにこの会を前にして千田貞宏と水田整が逝ってしまった。この2人は昭和19年明治神宮参拝の折に時の首相東條英樹と問答を交わし、国民の暮らしを心配していた首相を大いに心配させたという海城歴史秘話の登場人物であった。(泊 懋)

昭和27年卒 二七想友会

みんなちがって、みんないい

昭和27年卒というと東京が焼け跡の時代です。あれから70数年貧困と飢餓の荒波を越えて育まれた仲間達です。

令和元年10月16日台風の余波で曇ったり晴れたり。恒例の同窓会を開催しました。仲間の坂本誠一君所有の高田馬場・フレンドビル9Fのたまり場に集まった。傘寿も過ぎて米寿になろうかという面々が集まった。正直言つて心配した。よくぞ13人も集まった。



時は経つのは早いもの、いつの間にか齢をとりました。高齢になると、仲間を失い、体も動けなくなり、交流の機会も少なくなり、孤独になっていきます。健康のためにも旧交を温めつづらない話でも、それが一番話題は母校のことは去るものの、今何してんの？とか、健康の事、仲間の事など。みんなちがって、みんないい。談笑は尽きない。宴が進む中、坂本君の珍友マンガ・アニメのクニさんが全員の前で似顔絵を色紙に描いてくれた。嬉しいじゃないですか。時のたつのは早い、帰宅時間を考慮してお開きになった。みんな嬉しそうに自分の似顔絵を持ち、次回を約束して散会した。後日電話があつて、歳を考えると来年では遅すぎる。またやろうぜ！出席者（順不同）河野恒夫・藤原忠雄・鮫島弘周・中嶋可明・砂田郁郎・市村磐根・金子五郎・川手和夫・坂本誠一・大野金次郎・塚田雄・高田貞男・山本満男



昭和31年卒 A組クラス会 傘寿超え16人楽しく語り合い

令和元年6月6日、真夏日の日、新宿中村屋に集まったのは傘寿を超えた元気老



人十六人、出欠を問う欠席者の往復はがきの返信に「主人は亡くなりました」「参加したいのはやまやまなれど身体が言うこと利きません。」「行きたいけれど仏事と重なり行かれせん。」「という遠方の坊さん、不参加の代わりに大吟醸純米生酒をどうぞとクール便で送ってくれた奇特な方、「もう体も気力も衰えて家から出られせん。」「全く理由を書かずに「不参加」に○印の人、そして宛先不明で戻ってきた往復はがきなど。何はともあれ定刻の13時に抽選で指名された人が乾杯の音頭、そして歓談、前立腺の病をとくとくと語る人、異国の朋友のガン発症を気遣う人、独り身になって遅い

昭和33年卒 海原会三三三 乾杯の音頭は同期理事長

令和元年10月25日（金）、東武百貨店池袋スバイス15階「京懐石美濃吉」にて開催。当日は、大型台風19号とその後の大雨の余波を受けて、あいにくの空模様でしたが、参加予定者の13名、一年ぶりの海原会三三三



青春を謳歌する人、昨年の希望者で行った湯河原の宿を懐かしむ人、来年のオリンピックを予約した人、夫婦二人っきりをどう過ごすか説く人、趣味のはなし、酒の量、飲む薬の量、小用の回数などなど、いずれにしても、こうして元気な顔顔を互いに見られる幸せを、楽しく語り合った明るい嬉しいひとときであった。また秋に会う約束をして散会、カラオケに流れて行った人々もいた名残つきなS31卒A組のクラス会であった。(川村亮介)

会に全員定時に集まりました。

幹事の加藤清治君の司会で、先ずは、今年度の物故者 足立興成君、次呂久英樹君、西川芳弘君、松原正幸君、前田昌則君、小林浩君(日30年4月没で本年度連絡あり)6名を偲び、黙禱し御冥福を祈り、会をスタートしました。

乾杯の音頭は、同期の古賀理事長をお願いをし、又、理事長からは、学園創立130周年の行事として、前庭の左側(我々の時は図書館が有った所)に新理科館の建設中で、2022年に完成予定との報告が有りました。

会は、落ち着いた佇まいの中、京懐石料理を味わいながら各自の近況報告を楽しみながら健康に感謝!? 又、来年も、総会、同窓会で、元気で再会を確認して、鈴木紀孝君の一本締めで開会となりました。

(永竹久雄)

昭和35年卒 海原三五会

来年は卒業60年 再会を

毎年11月第1水曜日に行なっている「海原三五会・11月同期会」を、今年も、池袋サンシャインビル59階「天空の庭・星のなる木」で開催し、23名が集まりました。

いつものとおり、学生時代の話に花が咲き、一人ずつの近況報告では、毎日1回は笑う、1万歩歩くなど、それぞれの健康法のご披露が大半を占めました。和やかなうちに予定の2時間が、瞬く間に過ぎてしまいました。

来年は、海城高校卒業後60年となる記念の年です。卒業した昭和35年は、今上天皇 浩宮さまが誕生した年、一方、60年安保で樺美智子さんが亡くなった年でもあります。そして昨年は、通学路にあったロッテの工場が無くなり、若者たちで賑わう新大久保駅の改良工事も始まっています。

傘寿を前にして、急に身体の衰えを感じるようになってきました。来年は、「できるだけ多くの仲間と母校で再会したい」という願いを確認し合って、お開きとなりました。

(小池洋三)



昭和36年卒 海城36会

喜寿の祝いイベントを計画

6月8日28人が参加のもと総会を開きました。9月19、20の両日、伊豆方面へ一泊旅行に繰り出すことや、77歳を迎えるのを記念して近く喜寿の会を開くこと。今年1月に実施、好評だった明治神宮参拝を来年も行うことなど、当面の活動を決めました。今回も遠路、盛岡市から木下紘君が参加。



同君によると昨年の台風の影響で被災地の復興もまだ時間がかかる由。36会は震災の年の秋、有志が被災地を訪れ「遅れてきた修学旅行」を果たしましたが(遺憾ながら36会には修学旅行がなかったのです)、再度、現地を訪問、人々を励ます企画も検討することになりました。最後に副会長の重武茂任君が「28人の参加は、海原会総会の全参加者の1割です。数が問題ではないにしても、それだけ私たちが元気である証拠でもある。この勢いでまだまだ頑張れることを示そう」と挨拶し、ひとまず36会の総会を終了。引き続き海原会総会に場を移しました。ついでながら海原会総会後、まだ宵の内の四谷方面に足を向けた「つわも

の」が10人以上いたことを報告しておきます。

(瀧本喬)

なおバス旅行は計画通り9月19日、伊豆半島は中伊豆の大仁温泉に二泊二日の日程を実施しました。詳しくは海原会ホームページをご覧ください。

昭和42年卒 同期会

同期が本を出版

同期の後藤文雄君が本を出版しました。彼は日本大学芸術学部を卒業しTBS『ぎんざNOW』の構成作家などとして活動、長くメディア界に身を置いてきましたが、此の度、彼の初著書となる『吸血鬼だつてグルメが大好き!』を文芸社より出版する事となりました。海城中学、高校時の通学路として通った地元の中野北口を舞台にして書き下ろした一冊で、「街のややや話」と魔界から人間界の街「中野」に降り立った吸血鬼「Lefly」が昼間は中野ブロードウェイのフィギアのなかで眠り、夜は北口界隈の美食と美酒に酔いしれる、そんな彼が実在の名店と店にまつわるエピソードを紹介する現実とファンタジーが交差するところ云々奇抜で今までにないストーリー展開のグルメエッセイです。同期の皆さん、海原会会員の皆様にも一読頂ければ幸いです。(若菜茂樹)



昭和44年卒 同期会

卒50年 青春時代を回顧

令和元年6月8日の海原会総会に参加後、夕方より「卒業50周年記念同期会」をホテルローグデン新宿で開催いたしました。前回は平成10年12月に校内カフェテリアで開催しましたので、実に21年ぶりの開催と



になりました。当時の1組〜9組の担任の先生方のうち、7名はすでに他界され、2名の先生1組の周東先生(長野県駒ヶ根市に在住)、4組の目沢先生(長野県上田市に在住)もご高齢ということで、残念ながらご出席はできませんでしたが。そのような中で体育で共通のお教をいただいた大澤英夫先生(体育教諭・S31卒)にご出席を賜り、会に華を添えていただきました。出席者は総勢49名と大盛況で、50年ぶりに逢った級友も多々あり、「あいつはなんというやつだ

たかなア?」「あんなやついたかなア?」と、青春時代を回顧しながらの話で大いに盛り上がり、また卒業当時の写真、パネルを見ながらの懐かしい歓談にも笑いが絶えませんでした。記念品として当時の懐かしい校舎を背景とした「クオカード」を配布し、大いに喜ばれました。1〜9組のクラス幹事の皆さん協力いただきまして、どうもありがとうございました。

(海原益常任幹事 5組 山本有秀)

昭和54年海城中学卒ミ三同窓会 名古屋会を設立?

40年前に海城中学を卒業した3人が名古屋の地で再会しました。国語の須崎先生、剣道の内堀先生と共に海城に入学した我々世代。多くの経験と試練を学び舎から実体験で学びました。その甲斐あって、現在厳しい世の中の荒波に揉まれながらもなんとかやっていきます。東京から離れ、故郷を思う心は、母校を慕う心は、強いものがありますが、ここ名古屋でも母校愛健在なり。次回再会の時は、他の学年の方達とも交友を広めたく、お気軽に参加できるよう段取りいたします。是非ご参加下さい。

(富岡誠司)



昭和57年卒 山西先生の教え子会 仲間たちとの再会に乾杯!

新元号令和が始まった直後の18日に、高校卒業時のクラス会を基本とした山西先生の教え子会を開催しました。今年も沢山のメンバーが元気に参加してくれました。場所は学びの故郷、海城学園カフェテリア。やる事がなく男子学生がたむろしていた新大久保駅前の場所は多くの女性観光客に取って代わられた。また、夏場のクールミント臭が強すぎるロッテガム工場は住宅展示場に様変わり。韓流ブーム後はベトナムとネパール人が学校周辺に急増 などなど、学校を取り巻く外的環境は大きく変わったが、再会した仲間達は当時と少しも変わっていない。

皆からの差入れの酒で喉を潤しながら楽しい思い出話、秘蔵の話では大賑わい。山西先生(英語)のお陰で、海外でも英会話ビジネスバッチリ!飛岡先生(数学)の不思議



な伸縮自在棒を触ったらお叱りを受けた!長島先生(化学)の甲高い声の授業を録音して保管している!など懐かしい恩師の方々の話に華が咲いた。学生時代は、殆ど勉強をしなかったが、海城で学んだ事の一つに、この世の中で自分はどう生き抜いていくか、それを、意識する事を学べた。だから今でも我々は再会する度、成長できるんだよね、と改めて感じた次第。素晴らしい仲間たちとの再会に乾杯!そんなふうに思えるひと時があるのは、幸せなことです。

参加者(敬称略)海中時教え子…荒尾、飯野、関口(善)、山田、橋本(名古屋から)二次会のみ参加、卒業時教え子…荒川、井坪、佐々木、住谷、野沢、師尾、和田、富岡。

(富岡誠司)

昭和58年卒 6年8組クラス会 新たなメンバーも加わる

黒木先生が担任の昭和58年卒6年8組のクラス会を今年1月19日(土)に新大久保にある居酒屋鍛冶屋文蔵にて開催しまし



た。参加者は14名。5年連続の開催となりました。音楽家と金融関係の新たなメンバー2名が参加して、これまでとは違う盛り上がりもあり、今年もまた賑やかな会になりました。次回は2020年1月18日(土)を予定しています。

参加者…(敬称略)会田、井手口、大島大畑、奥村、尾又、木綱、高橋、中溝、花田、平地、堀、深沢、村松

(奥村周平)

平成3年卒 同期会 話題は仕事、子育て、人間ドック

令和元年6月29日に、平成3年卒で4年当時が1組と10組だったメンバーが集まって新宿でミ三同期会を開催しました。

遠く盛岡からの参加、土曜勤務のあとからの参加などさまざまでしたが、連絡の取れた8名全員が集まることができました。四半世紀ぶりに顔を合わせたメンバーもいましたが、高校当時の話題に始まり、仕事、子育て、人間ドック、…と多岐にわたり、一



次会だけでは語り切れず二次会へ。楽しいひとときを過ごしました。次回は来年あたりにメンバーを増やしての開催を予定しています。

写真(二次会にて、敬称略)…左から、吉田大能、野口、原田、馬場、深瀬、秋吉、東尾

(大能祐介)

平成14年卒 同窓会 同期生 連絡ください

今年の1月12日(土)に、毎年恒例の学年同窓会を母校カフェテリアで開催しました。今回で14回目となりました。今年は茂木先生、村上先生、福島先生、立川先生と、4名の先生方にお越し頂きました。一



方の卒業生は8名とやや寂しい状況でしたが、その分、じっくりと話をする事ができました。学年同窓会は、今後も毎年1月に開催予定です。ただ、参加者が少ないと幹事チームのモチベーションもいつまで続くかわからないので、皆さん積極的にご参加ください！

案内の葉書きやメールが届いていない方は、kaijo2002@googlegroups.comまでご連絡ください。Facebookにも「海城2002年卒」というグループがありますので、是非ご参加ください。
(黒岩直輝)

平成18年卒 3年5組の同窓会 30代に突入 大人になった？

令和元年8月14日、日比谷のダイニングバー「綴」にて平成18年度卒3年5組の同窓会を開催致しました。年1回、卒業から欠かさずに開催しており、今年で12回目となりました。毎年夏の開催であり、皆に会わないと夏が終わらない、そんな夏の風物詩になっています。今回は皆が30代に突入してから初めての開催となり、ついに参加者の半数以上が既婚者になりました。仕事の近況報告に加えて結婚に関する話題も増えたことで、一段と我々も大人になったと感じる会となりました。一方でまだまだ男子高校生のような他愛もない会話で大盛り上がりすることもあり、それが懐かしきもあり、成長の余地を感じるころではあります。恩師である渡邊先生には毎回参加して頂いており、当時はよく知る先生にそんな少しづつでも成長している姿をお見せでき、嬉しく思っています。これからお互いの成長を楽しみに、それをまた先生に報告することを楽しみに同窓会を継続していきたいと思っています。参加して下さいました皆さん、ありがとうございました。また来年会いましょう！
(藤田裕)



OB会だより

写真部OB会

故中林氏を偲んで

去る平成31年1月26日に東京の入谷にあるお鮎屋さんで、写真部のOB会が開催されました。昭和49年卒から昭和57年卒までのOB9名と、長らく家族ぐるみのお付き合いをさせていただいているOBの奥方2名が参加してくださいました。特に今年は、昨年6月に急逝されたOB中林靖さん（昭和54年卒）の思い出を語ろうと企画され、故中林氏の奥方も参加してくださいました。高校時代からずっとOB会を牽引してくださった中林氏の伝説となっている逸話をいくつも思い出して盛り上がりしました。そして、彼の突然の死を教訓に、定年前後のメンバーは、「何時お迎えが来てもいいように、OB会

で思い出を作る機会を増やします！」とコミットすることができました。
(昭和55年卒 鈴木英理)

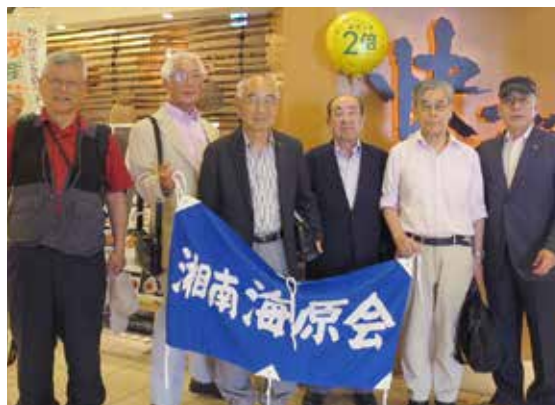


地域・海外だより

第47回湘南海原会 93歳大先輩も参加

令和元年5月25日、茅ヶ崎ビル6階の「快飛び」で第47回湘南海原会の例会を開催しました。今回は直前に都合が悪くなり出席を取りやめた方が多く6名の参加となりました。例により旧制海城中学校を卒業された93歳の大先輩のお元気な参加を頂き一番若い参加者は37年卒業の今年後期高齢者の仲間入り？をした同期生でした。大先輩の今でも毎日付近の茅ヶ崎海岸を毎日1万歩以上を歩いているお話しに畏敬の念を感じる一幕も有りいつも通り世代を感じさせない先輩方のお話に和やかに会は進行しました。旧制中学の先輩

を中心に始まった湘南海原会も47回を重ねて居て過去には20名を超える参加者の時もありましたが残念ながら物故される会員も増え減少の状況です。湘南海原会には湘南の冠を付けておりますが「海原」には境がありません。近郷近在に限らず多くの方々参加をよろしくお願いいたします。
(昭和37年卒 佐藤誠二)



京都・宇治

上村剛史先生に会いました

2018年3月まで海城に理科教諭として主に地学の教鞭をとっていた、地学部名誉顧問の上村剛史先生ですが、現在立命館大学の附属中高である立命館宇治中学高等学校にて勤務をされています。立命館宇治は共学、大学附属、寮がついている、文系の人数が多いなど、海城と全く違う環境の学校で



す。OBには駒井善成、奥川雅也、久保裕也といったサッカー選手やプロレスラーの中西学を、OGには歌手の倉木麻衣さんを輩出しています。
運動部の顧問もされており、高校野球部が甲子園に出場したこともあつて多忙な中先日お会いすることができました。今までいた環境と一変し大変そうではありましたが、元氣な笑顔を見ることができました。
(平成26年卒 村野元紀)

上海

立ち上げました

本年5月1日号の会報にて、私の上海在住についての寄稿を掲載頂きました。それがきっかけで、上海に駐在するお二人、澤田さん（S61）、穴山さん（H19）からご連絡を頂きました。この三名で、6月24日、初の上海海原会の会合を、市内の日本式居酒屋で開催しました。年代も、上海滞在年数も、ばらばらな三名ですが、上海での仕事上の苦勞話、笑い話や、お世話になった学校の先生方の話題などで、あっという間に、時間が過ぎてしまいました。各地の海外海原会が盛り上がりつつある会報記事を目にし、上海は、世界的にみて在留邦人の多い都市なので、OBはもつといたしやるのでは、仲間を募りましょう、という話になり、地元の人向けフリースペースなどで、上海海原会の告知を出



しました。その後、高田さん（S55）、谷口さん（S62）のお一人からご連絡を頂くことができ、計五名となりました。と思った矢先、初会合に参加頂いた澤田さんより、ドイツに転任となったのと、とても残念なご連絡が。現在、四名となりましたが、引き続き仲間を募り、会を継続していきたいと思えます。上海駐在の方、出張に来られる方、ぜひお気軽にご連絡ください！（miyama@163.com）（昭和59年卒 新山浩康）

フロンペン

ビジネス交流盛ん



企業同
けITア
ウトソー
シング大
手である
トランスコ
スモス株
式会社の
カンボジ
ア進出の
調査のた
め、同社
執行役
員の高山
智司さん

（H01）がフロンペンを訪れました。調査では現地でロコモグループを起業しコンサルティングを展開している小市琢磨さん（H05）の案内を受けました。カンボジアは今高度経済成長のただ中にあり、多くの日系企業が進出する一方で情報は玉石混交。そんな中で、高山さんは海城同窓の小市さんを中心に、ビジネスパートナーの紹介や無駄のないアポで有意義な調査ができたとのこと。画像：JETROにて中央が高山さん右2番目が小市さん（海原広報委員会）

ニューヨーク

海城の先生をお迎えして

今秋、海城の先生方が広報でアメリカを訪れた。10月20日（日）、八塚教頭と事務の塩田頭二朗さん（H03）を囲んで、ニューヨークにいる海城OBが会食をした。

ニューヨークからは、日本人学校で教鞭を執られている浅野貞雄さん（S50）と大手電機メーカーで働く佐藤益教さん（H17）さんが出席。遠く離れた異国の地で母校の思い出話に花が咲いた。

翌日、海城の先生方は浅野さんが勤務する日本人学校を訪問。学校はマンハッタンから1時間ほど車で移動した高級住宅街の中にあつた。ハリポッターの映画に出てくるような石造りの校舎を囲むように森があり、グラウンドに続く道の中には小川まで流れていた。



この場所ので130人の生徒が学んでいるのだという。出張のため先生方との会食は果たせなかったが、ニューヨークには羽山遼さん（H13）もいる。羽山さんは海城を卒業後、コーネル大学に進学。生物系の研究に従事した後、今夏から佐藤さんと同じ職場で勤務している。佐藤さん曰く、「羽山さんを私の職場にスカウトしたのだが、世界の生物学の発展を邪魔してしまつたかもしれない」とのこと。佐藤さんと羽山さんはこれからもずっととニューヨークで働き続ける予定で、「もし、

海城OBが留学や転勤でニューヨークに来るのであれば、力になるので声をかけてほしいとのこと。

最近の海城生は、羽山さんのように直接海外の大学に入学することを希望しているとも聞く。米国東海岸で海城OBの輪がさらに大きくなつていくのだろう。（国井信男）

ジャカルタ

出張者交えて会食



去る9月17日、世界に広がる海城OBの輪の一端に触れる機会を得ました。場所はジャカルタの郊外、初代大統領夫人であつた方も訪れたという上品な佇まいのレストラン。当日出張中だった現地在住の齋藤貴加年さん（H03）によ

るセッティングでした。

現地より岡本健治さん（H02）、土橋将行さん（H05）、齋藤哲也さん（H08）、日本より家族旅行中の国井信男さん（S62）、出張中の私岡本浩太郎（H02）が参加しました。

上記二人の「岡本」は高一で同級かつ剣道部でも共に戦つた仲で、今願叶つてジャカルタでの再会です。皆さんのお仕事や暮しぶりを伺つたり、ウェイターと流暢な現地語で話す様子に感心したり、遠い地で母校に思いをこめて昔話に花を咲かせたりする時間は大変有意義でした。なお齋藤貴加年さんと国井信男さんは、翌日別途会食できたようです。

ボストン

村田喜重さん（H28）が留学中

海城祭の模擬裁判で裁判長役を務めたことのある村田喜重さん（H28）がいま、経営学の学位を取ることを目指してボストンのエンディコット大学に留学中だ。村田さんは元々法律を目指し中央大学に進んだが、聞けば、村田さんのお父様も昭和53年卒の海城OBで中央大学を出てそして今は会社を経営しているのだという。ビジネスを学ぶことにしたのは、その影響もあるのか経営学に興味を持った。しかも海外で学ぶことを選んだのだという。短期留学と違って学位を取るまでボストンにいる予定なので、当分ボストン暮らしとなる。「もし、海



城OBがボストンに学びに来るのであれば、力になるので声をかけてほしいとのこと。（広報委員会）

分科会だより

海志会

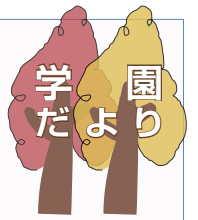
新会長のもと懇親会開催

現職の政治家や公務員等から構成される海志会の懇親会が、6月6日（木）、霞が関のCafe & Dining hall 虎ノ門店（パロバロ）2階において開催されました。宮沢隆仁氏（昭和48年卒、元衆議院議員）の後任として昨年7月に新会長に就任した村井英樹氏（平成11年卒、衆議院議員）のもと

で開催された初の懇親会。社会人1年目の方も研修先から駆け付けるなど、昭和48年卒・平成27年卒まで幅広く22名の会員が参加する、非常に大盛況な会となりました。会員の中には、昨年の総会で配付された宮沢前会長がデザインを手がけた海志会オリジナルネクタイを着用してくる人も。海城愛を感じる一幕でした。

懇親会は、来年も引き続き開催していく予定です。海志会では、随時会員を募集しております。本会への入会をご希望の方は、海原会ホームページの「海原会へのお問い合わせ・ご連絡」からご連絡ください。なお、ご連絡の際は、必ず勤務先をご明記ください。また、職場等の周囲に海城出身の方がいらつしやいましたらお声がけいただき、同様に「海原会へのお問い合わせ・ご連絡」からご連絡いただければ幸いです。（平成11年卒 齋藤亮輔）





海城中学高等学校は2011年度

から帰国生入試を本格化し、世界各国から毎年30名の帰国生を迎えています。帰国生を受け入れるねらいは、「共生教育の「層の充実」と「時代が要請するグローバル人材の本格的な育成」です。ですから、

海城では
帰国生だ
けのクラ
スを作る
とかカリ
キュラム
を組むと

世界に羽ばたけ海城生 海外広報活動と海原会

法人事務局入試広報室（平成30年卒）

塩田 顕一郎

かはず、海外での生活・学習体験を積んだ帰国生が国内の生徒と同じクラスで切磋琢磨することによって共生教育に相応しい多様性に満ちた学習環境を生み

出すことを目指しています。

帰国生が過ごしていた国は様々で、特に多いのは欧米ではニューヨークとロンドン、アジアではシンガポールとバンコクです。こうした都市へは定期的に訪問し、塾や日本人学校などを回る一方、現地で学校説明会を開き、海城教育の特色や帰国生の様子を広報しています。2019年は、5月にアジア4カ国5都市（ジャカルタ・シンガポール・バンコク・上海）で、



10月にアメリカ3都市（ニューヨーク・サンノゼ・サンフランシスコ）で学校説明会を開催しました。そして、海外に赴いた際に、もうひとつおこなっているのが、現地にいる海城OBにできる限りお会いしていただくことです。グローバル人材として世界の舞台で活躍する卒業生の様子を知ることとは今の海城生にとっても大きな励みとなるからです。



先日のニューヨークでは世代を超えた海城OBのお二人とお目にかかり

ました（その様子は今号の「地域・海外だより」をご覧ください）。また、サンフランシスコでは離日後にSNSを通じて連絡を取り合うことができた山本隼也さん（平成29年卒）と急遽お会いできました。山本さんはシアトルからの帰国生として帰国生入試がはじまった2011年に入学。卒業後は東京大学へ進学し、現在はカルフォルニア大学バークレー校に交換留学中で建築学を専攻しています。この日は忙しい授業の合間にUCバークレーのキャンパスを案内してくれました。将来のビジョンをしっかりと描きながら学問に真摯に取り組む山本さんの姿は、大変頼もしく映りました。いまや我々が世界のどこへ行っても海城OBがその地に必ずいます。今後は海原会のグローバルネットワークも最大限に活用しながら、海外広報を一層強化できたらと思います。

計報

謹んでご冥福を

お祈り申し上げます。

昭和14	堀川	昇	H 24	昭和29	須田	秀	H 28.5.16
昭和14	須藤	徳顯	H 31.3.11	昭和29	大石	忠久	H 30.8
昭和16	森藤	一彦	H 29.8	昭和30	小嶋	恭次	H 30.12.16
昭和16	増田	弘	R 1.9.23	昭和30	山口	正男	
昭和18	飯村	一夫		昭和31	岸田	克二	R 1.7.30
昭和18	松島	一男	H 31.04.11	昭和32	片岡	敏男	H 29.5.11
昭和19	小田	定朗	H 31.03.22	昭和32	寒河江	靖夫	H 27
昭和19	加藤	左武郎	H 30.8.26	昭和33	足立	興成	H 31.02
昭和19	山下	哲美	H 31.4.16	昭和33	次呂	英樹	H 31.6.25
昭和19	鶴田	康	H 31.01.29	昭和33	松原	正幸	R 1.07.03
昭和20	中島	和雄	H 27	昭和33	西川	芳弘	R 1.08.20
昭和20	酒本	和彦		昭和34	篠	紘弥	H 29.5.29
昭和20	浜田	謙一	H 31.1.8	昭和34	堀口	鎮男	H 31.2.28
昭和20	加藤	俊次	R 1.5.6	昭和36	宗形	讓	H 28.2
昭和20	伊故	海龍男	H 31.4.15	昭和46	片岡	隆治	R 1.6.2
昭和24	伊藤	敏雄	H 30.6.28	昭和48	豊田	充穂	
昭和24	桑原	久衛	H 30.05.15	昭和50	伊藤	敬郎	H 31.4.22
昭和25	吉田	茂	H 31.1.18	昭和54	中林	靖	H 30.6.1
昭和25	長島	正	H 30.8	昭和58	林	徹也	H 30.7.9
昭和25	江口	正英	H 29.5.24				
昭和26	大綱	進	R 1.9.27				
昭和26	高木	正行	H 31.3.29				
昭和27	興村	守彦					
昭和28	和田	満	H 28.9.21				
昭和29	森田	三朗	R 1.5.11				

おもちゃの海外 展開コンサルタント

株式会社イー・エム・シー 代表取締役

綿引民雄さん

わたびきたみお（昭和41年生卒）



昭和の時代はクリスマス、正月といえど子どもたちにとってはおもちゃが手に入る最もうれしい季節だった。おもちゃは年末年始商戦の目玉であり、おもちゃメーカーも競つてこの時期に向けてヒット商品作りにしのぎを削つて社会が湧いていた。さて時代は移り、スマホやコンピューターのゲームが主流となった現代、おもちゃはどうなっているのか、ちょうどいい人が見つかった。今回登場していただいた綿引民雄さん（昭和41年生卒）である。41歳の時にヘッドハンティングで大手おもちゃ玩具会社のタカラ（現タカラトミー）に引き抜かれ、2006年に独立して現在もおもちゃの海外展開を支援するマーケティング会社を経営している。かれこれ30年に亘つておもちゃ業界の第一線にいるおもちゃの専門家だ。

まずはじめにお断りしたいのは、ここでいう「おもちゃ」というのは主に小学生に上がる6、7歳くらいまでの子どもたちを対象としたいわゆる「定番おもちゃ」といわれる世界のことである。いまソーや任天堂のビ

デオゲームや携帯ゲームなどを含めて玩具業界ということもあるが、綿引さんはあくまでも「子供たちが手にとつて遊べるもの」にこだわっている。かつて一世を風靡した「たまごっち」や「妖怪ウォッチ」とかの世界である。

海外へ売り込み

「いやダメでしょ日本は。少子化ですし」——おもちゃ業界の現状はと聞いてみたらのつけから悲観的な答えが返ってきた。だから「日本のメーカーが生き延びるのは海外市場しかありません。小さな会社は人がいけません。私が開発商品の海外への売り込みや逆に海外市場の動向見て開発のアドバイスなどをしていくわけです。いまも年に14、5回は外山出ています」。なにが綿引さんをそれだけ駆り立てているのだろうか。「おもちゃを開発することが創造的で面白くということでしょうね。一人でもアイデア一つできます。それと一つ当たれば一夜にして大儲けできるという世界だから」。この業界ではタカラトミー、バンダイナムコといった2大企業は別格として、なお従業員5人、10人、あるいは個人でもおもちゃを開発している会社が70—80社はあるという。それだけが例えばブロックを組み立てて遊べる

「レゴ」のような商品が開発できたとしたら……と、この業界にいる人はだれしもが思う。おもちゃは商品であると同時に子供たちに「夢や希望」を与える「特別なもの」であるということが綿引さんの仕事意欲を高める原動力となっている。

ヘッドハントで業界へ

そもそもカシオの電子時計の海外展開で実績を挙げていることからおもちゃ業界にハントされた綿引さんである。海外はお手のもの。しかも大学は慶応の法学部である。ことばと法律知識があれば鬼に金棒かとおもったが、「でもはじめから海外を目指してとかなくて。英語も高校時代たまたま成績が良かったということ。大学も受験で数学がないうところと選んだらそこだった」とそつけない。それでもよほどおもちゃ業界は水があつたというべきか、2002年にタカラが開発したおもちゃ、犬語翻訳機「バウリンガル」が「人々を笑わせ、そして考えさせてくれる業績」に対して与えられるイグノーベル賞を受賞した時、綿引さんは当時タカラの専務としてその授賞式でスピーチにも立つていた。独立してからも精力的に世界を駆け回り、いまや国内外のおもちゃ業界で綿引さん知らない人はい

グローバルで生き抜く

とはいえ世界で競争するのはそう甘くはない。「日本はメカニク的なおもちゃ、例えば車がロボットに変化するようなメカニズムを考えるのは強いですが、そこにその技術を使つてどういうことをするかというストーリーを考えるのが外国に比べて弱いのではないかと思います。優秀なコンピューターや携帯電話を作れてもそれを使つて何をするか、アマゾンとか 아이폰とかのような展開ができないのどこか通じている面がある」といま日本の弱さも痛感している。おもちゃ業界は日本の産業の縮図に見えてきた。そんななかで綿引さんは「自分が手掛けた商品が世界各国で売れるのは密かな楽しみ」となお競争心を燃やしている。ところで社名のBMCというのはどういう意味かと聞いてみたら「Big Mens Club（大物倶楽部）」だといながら、笑つて「Bring More Cash, Buy Me Candy、要はどうでもいんです」。社名でも人を楽しませ遊ぶ根からのおもちゃ人である。そんな綿引さん最後に曰く「外国では常に日本食です」。ヤマト男でもある。（小西洋也 記）

われら 海城人

宇宙航空医学の 教科書作り

藤田真敬さん

ふじた まさもり（昭和59年生卒）

藤田真敬さんは防衛医科大学校の防衛医学研究センターの異常環境衛生研究部門で教授をしている。

研究対象は「宇宙航空における身体の異常」「酸化ストレスに対する治療」「テロ攻撃や災害時の医療対応」「重症患者空輸に伴う医療機器搭載の可否」「防弾チョッキの性能向上」など実には防衛医科大らしい。

名物先生の迫力に圧倒

海城高校1年の時の担任は英語の河野先生、2、3年の担任は生物の渡辺先生だった。

航空工学目指すも失敗

父親は航空自衛隊事務官。小さいころは自衛隊の基地の周辺に住んでいたの、自然と飛行機や機械に興味を持つようになり、大学は電子工学か航空工学を学びたいと考えた。しかし、自分が志望する学科が難関で、

表は母が見に行つたのだが、合格の報が信じられず、自分も夕方に市ヶ谷に見に行つた。第1志望の受験はこれからだつたのだが、気持ちが続かず、これはご縁と切り替えて防衛医科大に進むことにした。防衛医科大を卒業後は医師として航空自衛隊に入った。基地に所属しているときは日本のみならず世界中を飛び回り、いろいろな患者の診断や処置をした。その後、防衛医科大学に戻り、研究と授業をする今の生活となった。防衛医科大には海城OBが多い。ある時には3人の防衛

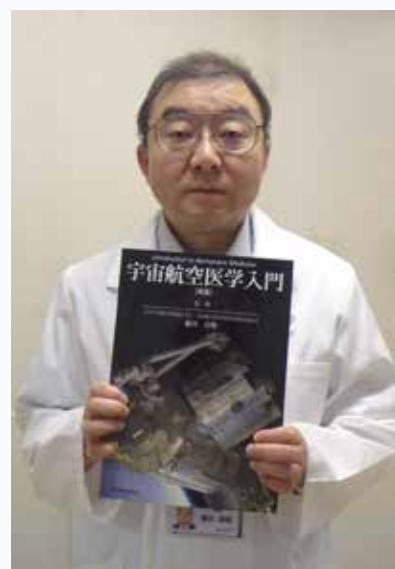
ある縁から、日本宇宙航空環境医学会で発表や講習会をするようになり、日本に航空医学の知識を普及させたいと思うようになった。藤田さんが勉強していた時は教科書は英語のものばかりで、裾野を広げにくかった。そこで、講習会のスライドを元に、日本語の教科書を作ろうと思った。現在は世界的なパイロット不足であるので、藤田さんの教科書が日本で航空関係者を増やすきっかけになれば、自分が世の中の役に立つたことになるだろうと藤田さんは語る。

渡辺先生に用事があると生物課職員室に赴くのだが、そこには海城名物の長島先生がいて、いつも迫力に

圧倒されたという。長島先生が飼っているピラニアをやらせてもらったこともあったとか。

当時の海城は非常に厳しく、学校帰りに喫茶店に寄っているのが先生にバレようものなら大変なことになった。それでも、

藤田さんには仲間と通った喫茶店があったのだと



勉強が間に合わないとかだったのが、高校3年の時だった。渡辺先生からは志望校の変更を再三促されたが、そのまま受験し浪人。

「海城出身の浪人仲間と駿台予備校の御茶ノ水校舎に通った時は高校の延長みたいな感じであったが、二浪目の時は置いてけぼりになった気がしてさすがにまいった」。それでも、渡辺先生は親身になって浪人中でもよく電話をかけてきてくれた。

そんな時に、父親に試しに受けてみると防衛医科大学の資料を渡され、どうせダメだろうと思いつつ受けてみると合格。発

達など天才的。自分もウェブプログラムなどシステム開発をやりましたが小久保にはかないません。私は他の人よりメンタルが強いと自負しているのどトラブル対応係といいますが企業経営上のあらゆる問題解決に当たっているという。

そして特異な経歴と経験に基づくメンタルの強さを強調した。「派遣社員時代8年ぐらいコールセンターでの苦情対応などをやりましたからね。適応能力やメンタル面はそこで鍛えられました。起業で盲く行ったり失敗したりを経験もあるし、多額の借金を抱えてその返済に追われるとか」

詳しく聞いてみると、「高校の3年間は勉強せずに遊ぶばかりいましたね。当然大学にもいけないし、学校卒業してからは親の仕事を手伝ったりしていたけど、ギャブルにはまって多額の借金も作ってた。会社勤めもするが、学歴もなく派遣の仕事も転々とするしかなかった」。そんな中、「小学生、中学の時に初期の手作りコンピューターでプログラムも自分で作ったりして遊んでいた」という経験と知識が役に立った。ちょうど

防衛医科大に進む

後輩のために教科書作り

現在の階級は空自一佐の藤田さん。仕事の集大成を意識する年齢になった。最近力を入れているのは日本人の航空関係者向けの教科書の作成。自身が監修する『宇宙航空医学入門』は先日再版されたばかりだ。

医大生の海城OBの担任的役割を担った時もある。

そんな忙しい生活の中でも、週一度は血管外科の手術で現場に立っている。患者と向き合うことで、「自分の研究がどんな風に患者の役に立つか、ということをや頭の隅に置いて研究できる」と藤田さんは考える。

当初は先輩たちのお手伝いのつもりであつた日本宇宙航空環境医学会の仕事も、気づけば先輩たちは退官し、藤田さんが中心に。

藤田さんが手にする英語の宇宙航空医学の教科書は、自身の監修した『宇宙航空医学入門』よりだいぶ分厚かった。今の教科書はあくまで入門編であり、もっと書き足していかなければならないことがあるのだという。

次世代の航空関係者のために力を入れる藤田さんの姿に、面倒見の良かった渡辺先生の姿が重なるように見えた。

（国井信男 記）

平成5年卒3人組 創造革命めざす

宮瀬卓也さん

みやせたくや

小久保知洋さん

こくぼともひろ

戸崎勝弘さん

とさきかつひろ



左から 戸崎さん 宮瀬さん 小久保さん

エンターテインメントの世界を中心にアーティストやクリエイターとその応援者であるファンの活動を支援するための総合的なネットシステム（プラットフォーム）を運営するSKIYAKIという会社がある。海城出身の宮瀬卓也さん（平成5年卒）が12年ほど前に設立した企業である。2年ほど前には東京証券取引所のマザーズに上場を果たし、新しいネットビジネスの市場を開拓しているとして注目されている新興企業である。

海城同期の3人が経営

実はこの会社もう一つ特筆すべき特徴がある。それは宮瀬社長と役員

と役員

3人が平成5年海城卒の同期生というのだ。それもはじめから3人で始めたという訳ではなく、卒業から十数年

経験を積んできた上で

の再会である。現在この会社で営業渉外広報

総務的なことを担当す

個性を活かす三銃士

さらに話を聞いてみると、三者三様、それぞれの経歴、人生経験、得意不得意なもののや能力才能が旨く合わさって強いチームワークを創りだしているようである。戸崎さんにはいけると「社長の宮瀬はどういう企業にするかといった理念を明確に持つており、事業のアイデアなどを考え出すのがすごいと思うし頭がいい奴だと思っていますよ。ライブドアにいた小久保はシステム開

発など天才的。自分もウェブプログラムなどシステム開発をやりましたが小久保にはかないません。私は他の人よりメンタルが強いと自負しているのどトラブル対応係といいますが企業経営上のあらゆる問題解決に当たっているという。

高校で落ちこぼれ

詳しく聞いてみると、「高校の3年間は勉強せずに遊ぶばかりいましたね。当然大学にもいけないし、学校卒業してからは親の仕事を手伝ったりしていたけど、ギャブルにはまって多額の借金も作ってた。会社勤めもするが、学歴もなく派遣の仕事も転々とするしかなかった」。そんな中、「小学生、中学の時に初期の手作りコンピューターでプログラムも自分で作ったりして遊んでいた」という経験と知識が役に立った。ちょうど

時代はパソコン時代の幕開けだった。「ウィンドウズ95が世界的に大ヒット、独学でマスターし、「勤めた会社でもコンピューターが分かるというので優遇され、何年かでの会社の正社員に。さらに30歳で起業してプログラムやシステム作りをやっていました」。

社会変革目指して結束

そんな戸崎さんが現在の会社に入つたのが39歳の時。自分の会社が苦しい時期だった。そんな事情を知った上で受け入れてくれた社長の宮瀬さんに感謝しているとともに改めて海城の同期の深い絆を感じている。入社後、会社の上場実現に持てる力を注いだ戸崎さんは改めてこの会社のさらなる発展に全力投球している。「この会社を世界的な企業にしようというのが3人の目標です。ただ儲けを追求するのではなく、人が自分の好きなことをやってそれが何らかの価値や対価を生みだして、暮らせるというような社会の仕組みを創り出したいと本気で考えているんです」。さまざまな辛酸をなめてきた経歴を持つ戸崎さんが言う。「真剣に遊んできたことがよかった」。

（小西洋也 記）

宮内庁書陵部にいます

海原会の皆さんこんにちは。この度、会報誌編集部より執筆の依頼をいただき、自己紹介を兼ねて近況等をまとめてみたいと思います。



私は平成十一年四月に宮内庁書陵部に採用されました。書陵部では東京遷都の際に京都御所から移された書物や宮内省の部局の

「資料をまもり、伝える役割を担って」

平成3年卒 田代圭一



す。歴代天皇、皇族の自筆や公家の記録等、歴史的価値の高い資料を多く所蔵し、その数は約四十八万点に上ります。私は入庁以来、図書課第一図書調査室に配属され、江戸時代以前の資料のうち、約三万五千点ある未整理資料の調査に携わっています。調査は個々の資料の内容を明らかにすることが主ですが、その過

程では筆跡や和紙の材質といった、資料から得られる情報も重視します。和紙に残った虫喰いの穴の形状や和紙表面の状態から、今は別々の巻物かもしれないことが判明したり等、活字からは得る事の出来ない、現物を扱うことの重みを実感することもあります。平成二十四年度からは新設された保存調査室も兼務し、所蔵資料の保存に係る調査や研究、対策も担当しています。書陵部の書庫はエアコンのない、自然換気が行われているために夏は三十度を超え、冬は十度を下回ります。しかし書庫内の温度変化は一年を通じて変化するために緩やかであり、かつ、木製の保存箱に収納していることから（画像参照）保存箱内の安定性は保たれています。昨今の資料保存は薬剤を極力使わず、予防に重点を置く方法が主流であり、書陵部でも除湿器の稼働による湿度調整、目視による資料の状態点検、トラップによる害虫調査を行うことで被害の早期発見、対処を行っています。地味で手間がかかりますが、我々職員が資料の状態や保存環境を熟知することで適切な対処が可能となっています。

また、宮内庁は内容により文書を筆で書くこと問々ありますが、私は長年書道が続けていることから（海



城の書道講師である枝元先生に卒業後から師事しています（筆耕を依頼されることもあります。画像是そのうちの

W杯が残したものの

十月の台風一過の横浜スタジアム。その瞬間、桜のジャージを纏った父と娘は拳を天に突き上げ叫び抱き合った。海城ラグビー部時代、将来のこの日をどうして

「広く印象づけられたラグビーの魅力・可能性」

昭和60年卒 武者良祐

想像出来ただろう？ラグビーワールドカップの日本開催、且つ我が代表がプール戦首位で史上初の8強入りする

瞬間を愛娘と分かち合う感無量！



開幕戦から決勝戦に至るまで20戦を観戦した。家族、友人、時には一人海外のサポーターと肩を並べ熱戦に声援を送った。海城ラグビー部同期らとも絶叫と祝杯を共にした。多数のにわかファンを獲得し大盛況となった今大会。選手達はピッチの内外で「ラグビー」を体現してくれた。代表選手達の鬼気迫るプレーと試合後の発言に「信念と努力は決して裏切らない」という事実にあらためて勇気づけられ、悔しさを抑え被災した街の人々の手助けをした某国代表の姿に、改めて他者への思いやりの大切さ

に気付かされた。

我が海城ラグビー部は廃部となつて久しいと聞く。ラグビーの楽しさと共にそれが持つ教育的価値をも考えると非常に惜しい。国際化が叫ばれ久しい我が国であるが、今大会で皆が気づいたことがある。それは国際化とは即ちダイバーシティの追求であり、それが将来のこの国に最も必要なものであるということだ。

前大会以前迄は「なんだ外人はつかじゃん」と思っていた日本代表だが、文化、言語など異なる背景を持つ人々が同じ目標を前にConnectしOne Teamとなり各人が努力と自己犠牲を厭わない姿に、皆「これが自分達の代表だ」と思えるようになった。決して日本代表だけでなく強豪国然りである。NZも南アもその他多くの代表が多民族で構成された「家族」であることを誇りとし「家族」の為に体を張る。

ラグビーを通してその原則である品位、情熱、結束、規

律、尊重、それに加え信念、自己犠牲の精神を有した国際人を我が海城で育てられたらとOBとしては切望する。海外から指導者・教員を招いたり、将来のリーチ・マイケルを招いたり、格技の選択肢としてラグビーを加えたり、またブレイヤーのみならず、海外帰国生徒が通訳サポーターをしたり、戦略を研究する生徒がいたり。ピッチの内外で生徒達がラグビーに拘りその文化と一緒に作っていくような環境が出来たら学園の国際化は大きく進むのではないだろうか。

OBの一人として支援は惜しまない。そして何よりも在校生には生涯の仲間を海城で作って欲しい。ラグビーはいつでもオヤジ達をあの頃の仲間達に戻してくれる。

※ラグビー部OB会ではラグビーをやつてみたい海城生に対しバックアップしています。

ラグビー部OB会 : info@kaijofc.com

グラウンドに眠る歴史考 V

当シリーズの①で昭和二十年四月十三日に東京を襲った「二回目の絨毯爆撃」で現在の一号館の部分にあった講堂と、当校と隣接する北海道出身学生の寮（四、五号館部分）、善隣高等商業学校（グラウンド部分）が焼失したとまで書いたが、それだけの火災の中なぜ本館が燃えずに残ったのか、そこには大久保地域住民と海城生による消火訓練の軌跡があった。

霞が関⇩戸山が原への移転経緯
大正十二年九月一日関東大震災では霞が関にあった海城中学は校舎の瓦が落ちたものの焼けずに残りその後も八百名あまりの生徒が学校生活を送っていた。ところが東京市復興事業により都市計画が進められ海城は新しい道路に校地を削られることになる。土地の所有者は海軍省であったことから、吉見乾海校長の知人や海城出身者も省内にいたおかげで移転に協力し陸軍練兵場に隣接する大久保が選ばれた。



防護団
そのころ国では関東大震災において消防署員だけでは消火できないことから、昭和五年に非常時火災警防規定が制定される。それは市民の自衛防火組織として防護団を編成するもので、昭和七年からは区町

村単位で編成が進められこの年東京市連合防護団発団式が代々木練兵場で行われた。

海城のある大久保では『淀橋区防護団発団式』の映像が残っている。16mmフィルムによる5分ほどの映像で、区の発団式、戸山が原で三千



『淀橋区勢年鑑』（昭和11年版）には「昭和八年六月創設以来関東大防空演習及び再度の三市（東京・川崎・横浜）連合演習に参加して好績をあげ、爾来本区防護の爲四時訓練を怠らず、（略）分團幹部訓練、各班基本訓練、團防館見學、講演映画會と連日連夜指導訓練をつづけ、六月二十九日には團員五千余名は降りしきる雨の中に総合訓練を行ひ、区内全

淀橋区防護団

平成5年卒 高橋有仁

戸山が原での防空演習

分團の査閲をなす等来るべき七月中旬の連合演習に備へ、日夜猛訓練を続けて居る。」とあるから、この映画こそ文中の映画会で上映されたものであり、映画における発団式は昭和8年で、奉祝會の昭和15年とのいずれかの年に行われた防空演習を記録したもののようだ。



の西側、90年代まであった西戸山ハイツ付近と推測される。戸山が原と聞くと戸山公園から早稲田の理工学部、学習院女子一

海城中学特設防護團

この映画には航空機からの爆撃を想定した消火活動のほか毒瓦斯（ガス）攻撃に対する消毒訓練も含まれている。昭和15年の奉祝會の映像があることからそれ以前に行われたものであり、太平洋戦争の前である。事実昭和6年（1931）満



州事変により国は非常態勢に突入し翌昭和7年には警察の指導によつて防空演習が始められていた。海城百年史に「本校ではすでに早くから海城中学校特設防護團」が編成され、敵機来襲時の災禍を最小限に止めるために待機の姿勢をとっていた」とあるから何らかの講習を受けていると考えられる。『淀橋区勢の展望』昭和12年版に「六月八九、十の三日間大久保小学校に於て分團幹部講習會を開き延人員千余名の受講者を得て好成績を収めた」とあるからその受講者の中に海城生もいたのではないかと推測される。

火災に備え、本館を守った

昭和19年12月、校庭南西隅（旧3号館色）に防火用貯水池が早稲田高等学校生徒



び特設防護團員は夜間でも駆けつけることとなった。

翌二十年四月十三日夜、大久保一帯に焼夷弾が降り戸山国民学校が炎上、海城では東門の外、校門の内側に落ちた。宿直の教職員と駆けつけた教員、防護團員生徒十数名で燃え始めた講堂の消火にあたり、職員が鉄骨を残すのみとなる全焼、そこで職員・団員たちは渡り廊下でつながっている別館と本館に燃え移らないよう、講堂北側の鉄扉を丸太で閉ざしホースとバケツで水をかけつづけた。この時の団員福田陸夫氏（昭和24卒）らは講堂が崩れ落ちるも防火壁は残り、明け方本館に燃え移らなくて済んだのを見届けると団員たちはすでに燃えて無くなっているであろう家路についたという。



資料提供 新宿区立歴史博物館

参考：淀橋区政の展望 淀橋区勢年鑑 昭和11年版 内田助五郎著 泰領社 昭和11、同昭和12版 海城学園百年史 平成3

台風接近に負けず63名が参加 第8回海原会ゴルフ大会 優勝者 安藤浩さん(昭和34年卒)



まだ緑残る2019年10月11日、精鋭63名が西武園ゴルフ場へ集結して第8回海原会ゴルフコンペが開催されました。例年同様に激しい戦いが繰り広げられましたが、優勝を掴まれたのは安藤浩先輩(S34卒)！徳光会長はどうしても外せないお仕事のために欠席の今回でしたが、同期の盟友である安藤先輩が大きな存在感をお示しになりました。

今回までは10月の第二週金曜日として開催して参りました海原会ゴルフコンペですが、温暖化の進行による台風の来襲を気にしなればならない時期になつてしまつたようです。今回もギリ

順位	氏名	(卒年)	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	安藤 浩	(昭34)	46	44	90	20.0	70.0
2位	里村 豊	(昭37)	46	41	87	16.4	70.6
3位	古市基彦	(昭62)	37	38	75	4.4	70.6
B G	羽根井泰郎	(昭41)	40	34	74	3.2	70.8

第8回海原会GOLF会コンペ出席者

牛込 壮造(昭32)	山田 雅康(昭36)	島野 仁(昭44)	金子 弘行(昭49)	込谷 憲(昭57)
鈴木 健義(昭32)	菅野 文夫(昭37)	大工原光男(昭44)	大西 義典(昭50)	坂本 明久(昭57)
吉岡 幸夫(昭32)	鶴田 良三(昭37)	工藤 聡(昭46)	吉年 秀隆(昭50)	橋本 孝一(昭57)
和田 昇三(昭32)	鷺田 和雄(昭37)	永尾 耕二(昭46)	石原 真吾(昭51)	吉岡 孝行(昭58)
池内 宏(昭33)	角田 純一(昭39)	石黒淳一郎(昭47)	佐藤 彰展(昭51)	植松 泰広(昭62)
安藤 浩(昭34)	吉岡 博(昭39)	里村 豊(昭47)	中村 浩(昭53)	大図 信男(昭62)
小池 敏也(昭34)	三輪 和夫(昭40)	石川 隆一(昭48)	小松 省人(昭54)	国井 祐次(昭62)
小山 隆紹(昭34)	小西 洋也(昭41)	甲斐 彰義(昭48)	樋口 稔洋(昭54)	齋藤 基彦(昭62)
渡辺 浩志(昭35)	篠 由紀男(昭41)	栢森 猛(昭48)	桑野 勝彦(昭55)	古市 英治(昭62)
浅倉 政行(昭36)	富岡 清(昭41)	角 達也(昭48)	鈴木 浩(昭55)	松尾 顯二郎(平03)
伊藤 邦正(昭36)	羽根井泰郎(昭41)	萩野 正雄(昭48)	東海林尊信(昭56)	塩田 純平(昭57)
岡本 隆雄(昭36)	永江 学(昭43)	吉田 雅明(昭48)	溝畑 佳男(昭56)	
林 昭策(昭36)	岡川 清明(昭44)	石川 秀樹(昭49)	荒尾 純平(昭57)	

ギリまで開催が危ぶまれましたが、なんとか終了することができました。来年からは開催時期を後ろへずらして、天候による懸念を少しでも減らすことができたかと考えております。

2021年の第10回の開催を目指して、まずは2020年の第9回を更に良い集いにするのがゴルフ部会の願いです。来年もよろしく願ひ申し上げます。

実行副委員長 昭和57年卒 荒尾純平

見ごたえあつた、今年の神宮

今年の夏の高校野球で全てを神宮第2球場で戦った。今年は投手の層が厚いとの前評判通り、初戦である2回戦の都立武蔵丘を7回コールド8対1、3回戦の都立荒川商業を5対4と快勝。4回戦の立正大学付属立正では9回2死までリードしたものの、同点にされ延長戦。10回で相手に得点を許し、1対2で敗戦。惜敗したとはいえ、3回も海城高校を応援することができたのは誠にうれしく、後輩たちに感謝。

夏の高校野球で神宮第2球場が使われるのは今年が最後だそうだが、どの球場で試合が行われることになつても、海城側の応援席はOBや関係者でいっぱいであることだろう。

(国井信男)



永年会費納入者 (敬称略)

平成31年4月から令和1年9月まで(受領日順)

平成02	富田 修一	平成01	加賀美和宏	昭和31	清水 順也
昭和58	伊藤 安彦	平成18	(五万円)	昭和56	溝畑 佳男
平成50	高田 信二	平成31	長谷川 慧	平成05	石丸 剛
平成31	京谷 隆正	平成31	田中 翔	平成15	古山 智裕
平成31	福島 祐亮	平成31	中井 優太	昭和33	石亀 雄
平成31	本木 秀明	平成31	井上 雄介	平成13	石井 翔
平成06	白水聡一郎	平成30	吉本 悠貴	平成01	三島 孝雄
平成31	原田 直毅	昭和41	鈴木 莊介	平成31	岸本 龍弥
平成02	湊 偉郎	(追加二万円)	今野 諒也	昭和59	川真田健二
平成28	山内 貴弘	平成31	矢口 透		
平成26	秋庭 慧佑	昭和54	梶原 修		
平成07	清水 怜	平成03	常安 健介		
昭和48	榎本 憲司	平成30	田辺 伊作	昭和19	小倉 康弘
平成31	清水 亮介	平成28	浅野 博紀		
平成26	山本 晃一	平成19	羽路 英明		

寄付

(十万円)

学園祭で開設 海原会サロン

OB紹介や学園の歴史など紹介 来場者 過去最高の2000名超

今年も7月下旬に第1回検討会議開催。まずは基本構想の検討。「歴史を創った海城人」「海原会活動報告の写真」「土業会など業種別会合の活動報告」。「ウーンこれでは毎年と同じじゃない」「マンネリ感満載...」「何か斬新なものない?」皆、頭を抱えてしばし沈黙。そうだ時代に合わせてITを活用しては? 恩師というか名物教諭の紹介は? などと少し前進。こうして骨格やスケジュールを策定して活動開始。遅れてやってきた猛暑の中、4回の会議や準備作業を経て当日を迎えました。

今年のハイライトは3年前に整備された学校のIT設備の活用。プロジェクターや音響設備を駆使し、創立間もないころの学校風景や遠足、文化祭の様子そして校歌を紹介。こんな昔から遠足や文化祭をやっていたのか等々反響は上々で来場者の関心を一段と高めることができました。

「歴史を創った海城人」も新たに20名ほどが加わり一段と多士済々になりました。宇宙開発、政府機関での国際的活躍、音楽や絵画などの芸術分野、IT関連の起業家など今を時めく方々を含め多方面で活躍するOBを紹介することが出来、海城の底力を改めて確認できるいい機会となりました。思い出の名教諭のコナーでは、来場したOBが当時を振り返りながら懐かしそうに微笑み授業の様子などを語り合っていたのが印象的でした。

今年も海城を目指す小学生とその保護者

が多数訪れ学校の歴史や伝統に見入っていました。また、卒業生とその家族連れの来場も年々多くなっています。卒業アルバムで、現役時代のお父さんやお祖父さんの写真を見つけて大盛り上がり光景が多く見受けられました。今年の特典は来場者への来場券は2,380名。学園祭全体の来場者が約18,000名でした。



今年も総入場者の約15%の方々に来場して頂くことが出来ました。

この海原会サロンと総会が、会員が集う2大イベントです。年2回の貴重なホームカミングデーとしてさらに会員に親しまれるよう今後も努力を続けてまいります。

全ての催しが常に斬新で皆様のご期待に応えられるものとするために若し方々の参加が必要不可欠です。サロン開催への絶大なご協力に心から感謝申し上げますとともに皆様のご来場と委員へのご参加をお待ちしております。来年も海原会サロンでお目にかかりましょう。

(サロン支配人 昭和41年卒 森山昭洋)

コミュニケーション授業

生徒の好奇心にいかに応えるか。緊張したけど、いい時間を持てました」と語るのは先ごろ、海城中学校のコミュニケーション授業で「教壇」に立った36会(昭和36年卒同期会)の重武茂任君です。

重武君が向き合ったのは中学2年生の9人で、授業の持ち時間は20分。普段、勉学中心の生活で「大人」と接する機会の少ない生徒に、「社会人の先輩の知見に触れ、視野を広げてもらう」のがコミュニケーション授業の狙いである。重武君は「青雲の志」を抱

36会副会長の重武君 教壇に立つ



では真の意味疎通は難しい。人の目を見、言葉を変換することで「自分かどう人間か」もより伝わり、何よりも人と話し、注意深くその話を聴く能力が育まれる。「これは人とのコミュニケーションを考えると

いて奄美大島から上京。海城高校に学び29歳で起業、今も事業に関わっています。人生を模索していた若き日、一念発起して単身、アメリカに渡るなど変化の多い歩みを送って来ましたが、その重武君が生徒に語りかけたのは「長く付き合える友人を持つ大切さ」です。中学から高校へ、一つの目標に向け同じ空間に身を置き机に向かった体験は何にも替え難い。知識だけでなく、そこで得た友達は将来、生きる貴重な財産になる、と指摘したのです。

その上で強調したのが「話をする時は相手の顔を見る」です。昨今はスマホのラインで簡単に会話が成立する時代。しかし、それ

大事です」という言葉は、今も広い人のネットワークを持つ重武君だけに、生徒も興味深そうに耳を傾けてくれたそうです。



「生徒の目がキラキラしているのが印象的でした。丁寧に書かれた感想文も送ってくれた。(大人)と話す訓練をすることは必要で、授業を通して学校が生徒と真正面から向き合っていることが分かりました。これも海城の(強み)でしょうねとは、重武君の感想。『機会があれば、是非、もう一度、やってみたい』とも話していました。(昭和36年卒 瀧本喬 記)



皆さま
こんにちは
はお元気
でいらっ
しゃいま
すでしょ
うか。本

来なら海城に伺って皆さまの前で
生でご挨拶をしなければならな
いのですが今日はどうし
てもつづきならない用がありま
して、それまったく同じ時間に

重なつてしまい欠席を余儀なくさ
れました。本当に申し訳ござい
ません、お詫び申し上げます。
海原会は再来年の2021年に

若い後輩たちの参加で発展

100周年を迎えます。また母
校は130周年を迎えるわけですけ
れどもこういった輝かしい年に向
けて、海原会としても何か記

念となるようなことをしたい
と検討を始めておりますが、皆さ
まからも「こういうことをしたい」、
「こんなことをやったらいいので
は」といった提案がありましたら
ぜひご提供いただければと思っ
ております。
母校海城の後輩たちはいまま

のすぐく頑張っておりまして海城
のブランドをグレイドアップして
くれています。孫たちに「おじい
ちゃん海城出ているの」と尊敬の
目で見られている人もいらつし
や
ると思いますが、私もその恩恵を
受けている一人であります。私
の時代は体力のみで名を売ってい

たそういった時代でした。それは
それで熱い青春の思い出になっ
ているわけですが、今の学生諸君は
進学優良校としてまた6年間密
海原会会長 徳光和夫
(昭和34年卒)

会の活動に積極的に参加してく
れる後輩が増えています。同窓
会としての先輩後輩のいいタテ社
会の関係ができております。若い
後輩たちの参加でこれからも海
原会が益々活発に発展していくこ
とを願っております。本日はビデ
オでのご挨拶大変申し訳ござい
ませんでした。お詫びかたがたご
挨拶に代えさせていただきます。
皆様のご健勝をお祈りしており
ます。



海原会
総会の開
催おめで
とうござ
います。
新しい
令和の時

代にはいり最初の総会ですが、ま
ますのご盛会をお喜び申し上げま
す。毎年六月、総会に合わせ沢山
の同窓の方々が母校に足を運ん
でいただきますことは、学園にとり
まして大きな力となっていること
でございます。教職員一同と共に
心より御礼申し上げます。

今年、学園創立128年とな
ります。創立130年記念事業と
して、新しい理科施設の建設を計
画いたします。その前段の工事と
して、現在3号館の取り壊し撤去

委員長であります昭和56年卒の
内田教頭よりご報告いたします。
なお、この建設事業につきまし
て、寄付金募集は行わない予定で
ございます。

その際に、現地に在住や駐在し
ている海原会員の皆様大変お世
話になっております。貴重な情報
を届けていただいたり、開催当日に
助言や援助をいただいたりして

行きたいと考えております。
将来、学校に期待されるもの、そ
の役割や存在価値が大きく変わっ
て行くと思われまふ。
海城は常に他の一歩先を歩んで

ております。この木が永遠に枯れ
ることの無いよう、教職員一同頑
張つてまいりますので引き続きご
助言ご協力をお願いいたします。
母校は、令和3年(2021年)
に創立130周年を迎えますが、
記念事業にとり、式典や祝賀会
の開催は予定いたしておりません。
令和23年(2041年)には、創
立150周年を迎え盛大な記念
式典と祝賀会で祝うと思ひますの
で、是非ご参加いただきますよう
お願いします。
海原会ますますのご発展を祈
念し挨拶いたします。

強い根に支えられ大樹に

作業が始まっております。夏には
終了し、跡地に新理科館が令和3
年に誕生する予定であります。
省エネ創エネを追求し、全館理科
教材となるような施設を目指して
まいります。詳細は後ほど、建設

海外での生活や文化を経験して
いる生徒や保護者に母校を紹介
するため、広報活動の一環として
毎年北米・ヨーロッパ・アジアの
主要都市で学校説明会を開催して
おります。

ります。大変有り難く、この機会
に海外海原会の皆様方に御礼申し
上げます。
また、このような機会をとらえ
て現地の懇親会を開き、母校と
卒業生の絆をより強いものにして

まいります。そのためにはリスク
に向かつて、色々な場面でチャレン
ジしてゆくことがあります。その時
に、海城の根つこであり力の源泉で
ある海原会が重要です。母校は
今、強い根に支えられ、大樹に育つ

海原会ますますのご発展を祈
念し挨拶いたします。

に海城学園講堂に於いて盛大に開催され
が参加しました。年間の活動報告、収支報
例の吹奏楽団演奏を堪能しました。場所を
最高齢参加者山本直三氏(昭22)の乾杯
席も多く、世代を超えた和やかな懇親会に
な気分です。往時を振り返り熱く語る人、久し
人など同窓会ならではの光景も見られまし
ての役割が定着しつつあります。この総会
の皆様です。来年の総会でさらに多くの会
しています。(海原会副会長 森山昭洋)



海原会

第98回

総会・懇親会

海原会の定例総会が6月8日(土)ました。今年も300名近い卒業生告、卒業年度表彰などが行われ、恒力フェテリアに移しての懇親会は、で開会。平成卒業の若い方々の出なりました。在校時代に戻ったようぶりの感激的な再会に大喜びするた。総会はホームカミングデーとしをさらに盛り上げていくのは会員の皆様が集うことを心から期待



平成30年度決算・平成31年度予算

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

単位=円

収入の部	平成30年度予算	平成30年度決算	平成31年度予算	備考
永年会費	2,310,000	1,788,000	2,300,000	
年度会費	600,000	602,000	600,000	
入会金	3,280,000	3,280,000	3,200,000	320名
総会参加費	860,000	772,000	900,000	300名
その他収入	200,000	168,400	0	グッズ販売は実施しない
寄付金	100,000	198,687	100,000	寄付他
雑収入	1,000	58	1,000	受取利息
合計	7,351,000	6,809,145	7,101,000	

支出の部	平成30年度予算	平成30年度決算	平成31年度予算	備考
会議費	200,000	195,000	200,000	
総会運営費	900,000	760,600	800,000	
会報印刷発送費	4,500,000	4,636,115	4,800,000	総発行部数2万部 発送費高騰のため
会報編集費	100,000	109,470	100,000	
通信費	200,000	236,448	200,000	会員所在確認のための郵送費
後援活動補助	200,000	200,000	200,000	吹奏楽団後援
慶弔費	20,000	0	20,000	
振替手数料	40,000	30,724	30,000	
賃借料	50,000	131,144	120,000	
事務費	150,000	207,500	150,000	
海原会賞	20,000	30,000	20,000	受賞者2名
備品費	230,000	153,615	50,000	
グッズ売上原価	150,000	225,502	0	
海城祭参加費	170,000	149,320	150,000	
寄付金	210,000	210,000	210,000	
記念品費	0	0	0	記念品は在庫で対応
旅費交通費(グッズ販売)	20,000	3,320	0	
配送費(グッズ販売)	5,000	8,635	0	
雑費(グッズ販売)	0	1,400	0	
法人税等	75,000	70,300	0	法人税・事業税・住民税の合計
合計	7,240,000	7,359,093	7,050,000	

前年度繰越利益金	11,302,957	11,302,957	10,753,009
当年度損益	111,000	▲549,948	51,000
次年度繰越利益金	11,413,957	10,753,009	10,804,009

学校の現況



学園報告

教頭

内田玄司

(昭和56年卒)

第98回海原会総会の開催、誠におめでとうございます。本日は、学事行事のため欠席させていただいた校長に代わり、母校の現状と新校舎建設プロジェクトについてお話しさせていただきます。4月に332名の新入生を迎え、母校には現在中高合わせて1958名の



生徒が在学しております。昨年度の卒業生は、高校募集を停止して6年目の、中高一貫カリキュラムが軌道に乗ってきた学年でした。東京大学に15名、国公立の医学部に35名、早稲田、慶應合わせて280名、私立大学医学部に合計128名等、立派な合格実績を上げました。

大学入試以外にも、生徒たちは様々な分野で活躍しています。模擬国連世界大会で「最優秀大使」を受賞、かるた甲子園4位入賞、俳句甲子園ベスト4、図書館の調べる学習コンクールで文部科学大臣賞、日本霊長類学会大会の中高生ポスター部門で最優秀賞、さらにインラインスケートの全国大会で高2の生徒が準優勝し、7月にバルセロナでおこなわれる世界選手権に日本代表として出場が内定しました。これからも生徒たちの力を最大に引き出すよう日々の教育活動を充実させてまいりますので、引き続き海原会の皆様のご支援をお願い致します。

新理科館計画

さて次に、新校舎建築プロジェクトの概要をお示し致します。また基本設計の段階であり、今後変更の可能性があることをお含みおきたいです。



敷地の南西端にある3号館を解体し、その跡地に前庭の部を加えた土地に、地上3階地下1階建ての新校舎を建設します。新校舎は、理科の実験室、講義室、準備室などを一棟に集めた「理科館」です。

実験室を大幅に増やし、設備を最新にすることで、今後さらに増える実験主体の授業に対応します。また、物理・化学・生物・地学の4分野それぞれの専門性を大切にしながらも、分野を横断してつながり、連携できるように、見通しの良い作りの校舎を実現します。さらに環境にも配慮し、屋上緑化もおこないます。太陽光発電や地中熱の利用などの省エネ・創エネ技術を活用するだけでなく、それらを目に見える形で建物に組み込むことで、校舎を丸ごと理科の教材にします。

揭示板

16